



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3175号 2016.8.9 発行

発達障害理解し見守って 本紙連載森山さん講演

神戸新聞 2016年8月8日

「発達障害のいいところにも目を向けて」と話す森山さん=神戸市中央区下山手通5



発達障害のある双子の姉妹を育てるクリエイター、森山和泉さん（46）=兵庫県在住=の講演会がこのほど、神戸市中央区の県看護協会ハーモニーホールで開かれた。「発達障害を理解する一子育ての中から」と題し、体験談や大切にしている心構えなどを紹介。約350人が耳を傾け、体験を共有した。（貝原加奈）

同市発達障害者支援センターの主催。森山さんは、本紙で2014年3月から、娘たちとの日常を基にしたエッセーと漫画「泣いたり笑ったり 発達障害の双子の歩み」を連載している。

森山さんの双子の娘は未熟児だった。「この子たちのためなら何でも受け入れられる」。新生児集中治療室（NICU）にいたわが子を抱いたとき、覚悟ができた。1歳2カ月のときから療育を始めた。

発達障害は、自分勝手▽集団行動が苦手▽片付けができないーなど、マイナスのイメージが先行しがちだが、素直▽純粹▽好きなことは継続する力がある▽規則やルールを守るーなど、プラスの特性もある。「バランスよく理解してほしい」と強調した。

また、発達障害は「親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能が関係する生まれつきの障害」といわれる。「本人の努力や心掛けではどうしようもない。細やかにルールを決めるなど、『別のアプローチが必要』と付け加えたい」と訴えた。

さまざまなことへの苦手意識を減らすための具体的な工夫も紹介した。例えば、秩序を大切にするという長所を生かし、持ち物とかごに同じ色のシールを貼って片付けやすくしたり、中身が一目で分かる靴箱を洋服入れとして使ったりするなど、アイデアを披露した。

長女が小学1年のときに不登校になったエピソードも明かした。「学校に行きたくない」という娘に戸惑いながらも、代わりに毎日学校へ足を運んだという。「地域や学校とのつながりを絶やさないようにしながら、本人の力を信じて見守った」と振り返った。

会場には、小さいころから絵を描くのが大好きで、高校生になった娘たちの絵を展示。「子どもの『好き』という気持ちに意見せず、一緒に好きになってほしい」と呼び掛けた。

パラリンピックのロシア排除「一石投じた」=日本関係者、総じて支持

時事通信 2016年8月8日

国際パラリンピック委員会（IPC）が、国家主導のドーピング違反でロシア選手団を9月のリオデジャネイロ・パラリンピックから全面排除する決定を7日発表し、日本の障害者スポーツ関係者に衝撃が広がった。

日本パラリンピック委員会の鳥原光憲会長は8日、ロシアの薬物違反について「倫理観、フェアプレー、法律や規則の順守、チームプレーといった精神に根本的に反するもの。ス

スポーツの価値を共に高め合ってきた仲間として非常に遺憾に思う」とコメントした。

日本身体障がい者水泳連盟の桜井誠一技術委員長は、ロシア選手団を条件付きでリオ五輪に参加させた国際オリンピック委員会（IOC）の判断と比較し、「パラリンピックの方がより厳しくみるのは当然のこと」と指摘。障害の程度によっては、薬物で選手に生命の危機が及ぼされる可能性があることから、容認できないとの立場を示した。日本パラ陸上連盟の三井利仁理事長も「全面排除は非常に残念だが、IPCは強い意識で一石を投じた」と支持した。

ロシア政府はIPCの決定に対し、スポーツ仲裁裁判所（CAS）に提訴する意向を示しているが、このままりオ大会の全面排除が決まれば、陸上の一部の種目で日本にメダル獲得の可能性が高まるという。

4年後のパラリンピック開催地は東京。三井理事長は「ホスト国として全てを良い方向に変えていかなければならない」と述べた。

### 植松容疑者、大麻の陽性反応 出頭後の鑑定で検出 朝日新聞 2016年8月8日

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が死亡した事件で、殺人などの容疑で送検された元職員、植松聖（さとし）容疑者（26）の尿を検査したところ、大麻の陽性反応が出たことが捜査関係者への取材でわかった。大麻を使用していたとみられる時期は不明という。神奈川県警は、事件への影響を慎重に見極める方針。

捜査関係者によると、植松容疑者は7月26日午前3時過ぎに津久井署に出頭した際、覚醒剤などの検査には応じたものの、大麻については検査を拒否。県警が令状に基づいて尿を採取し、鑑定した結果、大麻の成分が検出されたという。

翌27日の植松容疑者宅の捜索では植物片が見つかり、大麻と確認されていた。また、2月に衆院議長に宛てた手紙の中で植松容疑者は、「精神薬を服用する人は確実に頭がマイナス思考になり、人生に絶望しております。心を壊す毒に頼らずに、地球の奇跡が生んだ大麻の力は必要不可欠だと考えます」と書いていた。（照屋健、奥田薫子）

### 相模原殺傷事件、厚労省が検証チーム 秋メドに再発防止策

日本経済新聞 2016年8月8日

相模原市の障害者施設殺傷事件を受け、厚生労働省は8日、措置入院していた植松聖容疑者（26）を退院させた判断が適切だったのかなどの検証と再発防止策の検討を行う「検証・検討チーム」を同日付で設置したと発表した。

同チームは精神疾患の専門医や福祉施設の関係者らで構成。10日に初会合を開く。措置入院の検証は今月中に終え、今秋をメドに再発防止策をとりまとめる。

厚労省は7月29日、植松容疑者が措置入院していた北里大東病院（相模原市）を立ち入り調査した。カルテや植松容疑者を診察した医師からの聞き取りなどをもとに、措置入院時の対応や退院後のフォローアップなどを検証する。

### 閣議の概要について 首相官邸 2016年8月8日

閣議の概要について申し上げます。一般案件等54件と政令、人事が決定されました。大臣発言として、私（官房長官）から「障害者施設における殺傷事件への対応に関する関係閣僚会議の開催について」申し上げ、厚生労働大臣から「障害者施設における殺傷事件の検証及び再発防止策の検討等について」、国家公安委員会委員長から「障害者施設における殺傷事件への対応に関する関係閣僚会議の開催について」、総務大臣から「郵政民営化を担当する大臣を補佐する副大臣及び大臣政務官について」、文部科学大臣臨時代理たる鶴保大臣から「教育再生を担当する大臣を補佐する副大臣及び大臣政務官について」、経済産業

大臣から「産業競争力を担当する大臣を補佐する副大臣及び大臣政務官について」、国土交通大臣臨時代理たる山本有二大臣から「水循環政策を担当する大臣を補佐する副大臣及び大臣政務官について」、安倍総理大臣から「海外出張不在中の臨時代理について」、それぞれ御発言がありました。

### 【相模原殺傷事件】見えてきた警察と措置入院の境界の問題



福祉新聞 2016年08月08日 編集部  
津久井やまゆり園の献花台で手を合わせる親子（1日）

神奈川県は7月29日、県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」（相模原市緑区）での殺傷事件を受け、黒岩祐治知事をトップとする再発防止検討対策本部を設置した。当面の対応として8月中旬までに正確な事実関係を把握し、関係機関との情報共有の在り方などを検証する。併行して同施設の機能回復への

取り組みを支援する。事件当時157人いた入所者は、2日9時現在で90人。他施設への移動、自宅への帰宅が進んでいる。

県は指定管理者として同施設を運営している「かながわ共同会」（米山勝彦理事長、厚木市）に事件の経過報告を求める。黒岩知事は本部設置にあたり、「どこに課題があったのか、徹底的に洗い出す」と話した。

事件は7月26日未明に発生。同施設の前職員、植松聖容疑者（26）が入所者を刃物で刺し、19人が死亡、26人が重軽傷を負った。容疑者は今年2月、同施設への犯行予告を書いた手紙を衆議院議長宛てに提出した後、同施設を退職。自傷他害の恐れがあるとして措置入院となり、3月に退院した。

政府は7月28日、措置入院と解除の判断の在り方、退院後の継続的な支援体制などを検討する関係閣僚会議を開いた。警察や関係団体との情報共有も検討課題とする。

安倍晋三首相は会議で「施設の安全確保の強化、措置入院後のフォローアップなど必要な対策を早急に検討し、できることから速やかに実行に移してほしい」と指示した。

#### 津久井やまゆり園の入所者の現況

##### 警察と医療の境界

一方、事件発生から時間がたつにつれ、警察と措置入院の境界の問題も見えてきた。

横浜市では7月27日、市内の無職の男が障害者施設（都筑区）の破壊を予告する匿名メールを磯子区内の福祉施設に送信。届け出を受けた神奈川県警は29日、威力業務妨害の容疑で男を逮捕した。

メールには「この施設の法人は今ニュースになっているやまゆり園の被疑者と変わらない」と書かれていた。このメールは、第三者を経由した点で植松容疑者の手紙と同じだが、

津久井やまゆり園の入所者の現況 (人)

	男性	女性	計
事件当時の入所者	99	58	157
死亡	9	10	19
入院中	15	3	18
事件後に帰宅	11	5	16
事件後に他施設	5	9	14
現在の入所者	59	31	90

※2016年8月2日9時現在、神奈川県発表

容疑がかけられた。犯行計画を詳細に記した手紙が罪に問われない不自然さを目立たせる格好となった。

植松容疑者の措置入院を決めた相模原市は1日、記者団に対し、「手紙の内容は当市では詳細に把握していなかった。犯行のがい然性が高いのであれば、その段階で警察が逮捕できなかったのかと思う」（精神保健福祉課）としている。

また、措置入院の狙いは本人に医療を提供することであり、犯罪抑止ではないということも強調した。この点について大阪府内の精神科病院のソーシャルワーカーで、日本精神保健福祉士協会の柏木一恵会長は「精神科医療に社会防衛を期待されても困る。そもそも今回のケースが措置入院とする対象だったのか疑問だ」と話す。

「強制医療の必要性があったとは思えない。仮に措置すべき症状があるならば、疾患の特性にもよるだろうが、一定期間後に措置入院から医療保護入院、任意入院に切り替えるのが普通だ」としている。容疑者が薬物依存症であるかのような報道もあるが、同市は「依存症という診断はしていない」と否定している。



### 気持ち共有する場

内閣府の障害者政策委員会では、死亡したやまゆり園入所者に黙とうを捧げた(7月29日)

措置入院という事実が繰り返し報道されると、精神疾患と事件の間に因果関係があるかのような論調になり、世の中の精神障害者は落ち着かなくなる。

そのことに危機感を抱いたNPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)は1日、「気持ちを共有する場」をホームページ上に設けた。10日正午まで書き込

みを受け付け、31日まで記述内容を公開する。不安な気持ちなどを吐き出せる場が必要だと判断した。

2001年の大阪・池田小児童殺傷事件の際、容疑者に措置入院歴があること(後に詐病と判明)が取り沙汰された。その結果多くの精神障害者の気持ちが落ち込み、自殺者まで出す事態になったとする調査報告もある。

DPI日本会議など五つの障害者団体は2日、記者会見を開き、措置入院の見直しの検討は障害者への差別や偏見を助長する恐れがあるなどと訴えた。

### 「死んでもいい命なんかない」 舞台主宰の内海智子さん 小北清人

朝日新聞 2016年8月9日

内海智子さん。ダウン症の青年が1996年のカンヌ映画祭で主演男優賞を受賞したことに勇気をもったという＝藤沢市

7月26日未明の惨劇を、内海智子(さとこ)さん(56)はその日夕、神奈川県藤沢市の自宅に帰ってから知った。相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件。仕事で朝早く家を出たので、テレビをつける時間がなかった。

事の次第を知って危惧したのは、容疑者の「障害者なんかいなくなればいい」という毒に満ちた供述が広まることで、「障害者への不寛容さ」が社会に強まりはしないか、ということだった。

「先天性異常というのはいくつもあり、そのうち顕在化したものが病気とされる。障害者が健常者と全く違う存在というわけではない。誰も自分の中に弱い部分がある。その自覚があるなら、障害がある人への視線は優しいものになるはずなのに」

内海さんは早稲田大卒業後、高校教諭、新聞社勤務を経て、五つ上の邦一さん(その後、



放送作家)と結婚し、雑誌を舞台とするフリーライターに。1994年に長男隼吾(じゅんご)さんが生まれた。半年後、「息子さんはダウン症です」と医師に告げられ、目の前が真っ暗になった。仕事も中断せざるを得なくなった。

折れそうな心が救われた気がしたのは、市内にあった県立の療育施設を訪ねた時のことだった。そこで、いまも忘れられない光景を目にした。

チューブにつながれ、車いすに座る小学生の女の子。そばで母親と療育の先生が話していた。女の子が何か言いたげに、にこっと笑った。「あら、今日は、すごく楽しかったのね!」。2人は一緒になって喜んだ。

「その子は与えられた命を精いっぱい生きているし、それを支える人たちがいる。私も、こういう風に行けばいいんだ。自分は1人じゃない。そう思ったんですね」

## 相模原殺傷 9団体代表ら対策協議 障害者施設、防犯強化へ 静岡

産経新聞 2016年8月9日

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人が刺殺された事件から2週間が過ぎた8日、県内の社会福祉施設の代表者と県、県警の担当部局が一堂に会し、子供や高齢者を預かる施設の防犯対策を協議した。中でも、事件があった園と同種の施設が属する「県知的障害者福祉協会」では、今年度中に全施設が防犯カメラを設置して警備会社と契約し、防犯マニュアルを整備する方針を明らかにした。

静岡市葵区で開かれた会議には、高齢者福祉施設や児童養護施設、障害者施設など9団体の代表者が集結。各施設では不審者侵入を想定した防犯対策はほとんど行っておらず、「入所者が無断で外に出ない対策は行っているが、入所者が被害に遭うことは想定外」「夜間に入所者全員を少人数の宿直職員が守ることは難しい」といった戸惑いの声が聞かれた。

こうした現状を受け、県警生活安全企画課では、いかに不審者に侵入されないか、いかに迅速に通報するかについての対応を要請。「安価で購入できる補助錠やガラス飛散防止シートといった一般的な防犯対策であっても一定の効果はある」と、まずはすぐにできる対策を実行するよう指導した。

## 大学の障害者対応を支援＝拠点校設け専門家増員－差別解消法施行で・文科省

時事通信 2016年8月9日

文部科学省は8日、障害を持つ学生への対応が進む国公私立大学を拠点校とし、来年度から重点的に支援する方針を固めた。拠点校にはカウンセラーや障害者向けの教材を作る専門家の増員に必要な人件費を助成し、得られたノウハウを他の大学に提供してもらう。来年度予算概算要求に関連経費として数千万円を盛り込む。

4月に施行された障害者差別解消法は、役所や学校、民間事業者に、障害を理由にした差別を禁じ、障害者への「合理的配慮の提供」を義務付けた。大学にも障害のみを理由とした入学の拒否を禁止し、授業で不便を感じさせない配慮などを求めている。

ただ、大学からは「どんな配慮が必要なのか分からない」「障害者対応の専門人材を確保できない」と戸惑いの声が出る。一方で大学で学ぶ障害者は、2009年の約7100人から14年には約1万4000人と急増している。

そこで、文科省は拠点校に資源を集中させ、各大学の受け入れ態勢改善に生かすことにした。例えば、教材の点字翻訳は、拠点校で資料を作成し、共有することを検討。発達障害者へのカウンセリングでは、拠点校で対応した事例を収集し、専門家の少ない大学に情報提供する仕組みを想定している。

また、障害者差別解消法の施行に伴い、大学が学生から「合理的な配慮を受けられなかった」と訴えられる可能性がある。このため同省は、紛争の防止や解決手段の検討を助成対象とすることも検討している。

## 知事「個性や尊厳認め 支え合う社会を」

読売新聞 2016年08月09日

### ◆相模原事件受け、談話発表

神奈川県相模原市の知的障害者福祉施設で起きた殺傷事件を受け、達増知事は8日、談話を発表した。

談話では、「障がいのある人も障がいのない人も共に差別されることなく、基本的人権を享有するかけがえのない個人として等しく尊重されなければなりません」と強調。10月に県内で全国障害者スポーツ大会が開催されることにも触れ、「個性や尊厳を認め合い、共に支え合う社会を目指すということを、この岩手の地で確認し、全国に発信していきましょう」と呼び掛けた。

この日の記者会見で達増知事は談話を発表した理由について、「個別具体の事件については、実態究明を待たなければいけないことも多い。しかし、容疑者が発している障害者を差別するような言葉や考え方に対しては、国内のあちこちから声上がるべきだと思う」と述べた。

## 障害者を生活の主人公に 全障研第50回大会終わる しんぶん赤旗 2016年8月8日

障害のある人の暮らしの場での支援について学びあった分科会＝7日、京都市



京都市内で開かれている全国障害者問題研究会（全障研・荒川智全国委員長）の第50回大会は7日、保育・療育や入所施設などでの支援など52の分科会と5テーマの学習講座で学びあい、閉会しました。

グループホームや入所施設など障害がある人の暮らしの場の支援をテーマにした分科会では、入居者が自身の生活の主人公になるかわり方の実践の報告がありました。

堺市のグループホームに住む、重度知的障害のある40代女性は、不安などを自傷や他害などの行動で表現します。ホーム職員は、女性が日中過ごす事業所の職員、保護者らと話し合いながら10年かけて女性が示すサインを獲得したと紹介。共同研究者の田村和宏立命館大学准教授は「制度が貧しい中でも、職員と利用者の共感関係や信頼関係を積み重ねていくことは大切だ」と述べました。

障害の重い人の日中活動をテーマにした分科会では、職員間で支援のあるべき姿を共有することの大切さを語り合いました。

埼玉県内の社会福祉法人職員は、「一人を大切にすることがみんなを大切にする」という法人が掲げる理念を紹介し、「どんなに重い障害があっても決してあきらめずに仲間の願いに応える支援を職員全体で取り組んでいる」と報告。共同研究者の社会福祉法人グロー（滋賀県近江八幡市）の山田宗寛さんは「言葉で表現することが困難な人の“言葉”をくみ取り、思いに近づくことが私たちの喜びにつながる」と話しました。

## 県庁などで実習へ 知的・精神障害者に働く場

大分合同新聞 2016年8月9日

県は来年1月から約2カ月間、知的障害者と精神障害者の職場実習を県庁内や出先機関で実施する。適性が認められれば県の非常勤職員として採用し、同4月以降、同じ職場で1～2年間勤務できる。県内では身体障害者に比べて知的・精神障害者の雇用率が低く、県での実習・勤務をステップに民間での就労につなげたい考えだ。

実習場所は▽県庁（ワークセンター、障害福祉課）▽県振興局（東部、南部、西部、北部）▽農業大学校▽公文書館一など計11機関。文書集配や公文書の整理、データ入力、

清掃作業といった業務に従事する。

本年度の募集枠は知的11人、精神3人。19～39歳になる人が対象で、支援施設や精神科デイケア実施機関を通して募集する。申し込み受け付けは9月1～14日。10月中旬から11月上旬にかけて1次・2次試験を予定している。

県障害福祉課によると、2007年度に始まった実習にはこれまでに78人が参加し、うち72人を非常勤職員として採用。本年度も計17人を県庁や出先機関などに配置している。非常勤職員経験者のうち、35人（知的29人、精神6人）が県内企業などに就職した。

一定規模の事業所で従業員数に占める障害者の割合を示す「障害者雇用率」で、大分県は全国2位の2・43%（昨年6月現在）。障害種別では身体は全国1位（1・72%）であるのに対し、知的14位（0・55%）、精神15位（0・16%）と開きがある。

広瀬勝貞知事は定例会見で「県庁で働いた経験を生かして民間に就職していただきたい。能力が高い人も多く、今後も障害者の雇用を増やす試みに取り組んでいきたい」などと述べた。職場実習の問い合わせは県障害福祉課（TEL097・506・2731）へ。

## 障害者スポーツ普及、相次ぎイベント・千葉市、機運高める

日本経済新聞 2016年8月9日

千葉市はリオデジャネイロパラリンピック（9月7日～18日）に合わせ、障害者スポーツの普及イベントを相次ぎ開く。競技の体験会のほか、駅前でパラリンピック競技を放映するパブリックビューイング（PV）を催す。2020年東京パラリンピックの開催地として機運を高めるとともに、障害がある人もない人も誰もが支え合う共生社会づくりを推進する。

同市はリオパラリンピックの開幕に先立つ9月3日、市民が障害者スポーツを体験する「パラスポーツフェスタちば」を千葉ポートアリーナで開く。座った姿勢で競技するシッティングバレーボールや車いすバスケットボールなど6競技が体験できる。誰でも無料で参加できる。一部競技は事前申し込みが要る。

9月8日からはパラリンピック中継や競技の紹介映像を流すPVを実施する。19日までほぼ毎日朝と晩にJR海浜幕張駅前広場で開く。日中は大型ビジョンを搭載したトラック「ビジョンカー」で市内各区を移動しながら映像を流す。熊谷俊人市長は「通勤時に駅に行く時間を早めて皆で観戦し、大会を盛り上げてほしい」と話す。

9月17日～19日には障害者の雇用を取り巻く環境や介助機器について学べるイベントを海浜幕張駅前広場で開く。「スポーツをきっかけに、障害者の雇用が企業のダイバーシティの観点から価値のあることだと理解してほしい」（熊谷市長）という。介助機器のデモンストレーションも実施し、障害者への理解を深めてもらう。

千葉市は20年東京パラリンピックで、車いすフェンシングなど4種目の開催地に決まっている。相次ぐイベントの背景には、パラリンピックの好機を生かして共生社会の実現をめざす狙いがある。障害者と健常者が分け隔てなくスポーツを楽しみ、就労の機会を平等に得られるよう市民の意識を変える目的だ。

同市は今年度から課長研修の一環として、目隠しで鈴の入ったボールを転がしゴールを狙うゴールボールの体験会を始めた。職員の意識から変えようという試みだ。このほか、障害者スポーツのアスリートが市内の小学生向けの体験イベントも開いている。市は相次ぐ普及策により「期待と夢をもって20年大会を迎えたい」（熊谷市長）と意気込む。

**【露ドーピング問題】「ソ連に障害者はいない」偏見乗り越えてきた障害者の処遇に“逆風”も** パラリンピックから全選手排除で

産経新聞 2016年8月8日

【モスクワ＝遠藤良介】国際パラリンピック委員会（IPC）がリオデジャネイロ大会

からのロシア選手団除外を決めたことに対し、同国の政界や関係者からは「政治的判断だ」といった反発が上がっている。ロシアでは障害者に対する差別と偏見が根強く、2014年3月のソチ・パラリンピック開催を機に、障害者の生活改善に関心が芽生えたばかり。リオ大会からの選手団排除は、障害者に関する社会意識の向上を図る上では逆風となる可能性もある。

7日、リオデジャネイロ市内で記者会見する国際パラリンピック委員会のクレブソン会長（壇上右）。ロシア選手団のリオ・パラリンピック大会からの全面除外を発表した（共同）



露パラリンピック委員会のルキン委員長は地元メディアに対し、世界反ドーピング機関（WADA）の同じ調査報告書に基づきながら、リオ五輪からの全面除外を見送った国際オリンピック委員会（IOC）と異なる決定がなされたことを「不公平だ」と批判した。

ムトコ露スポーツ相も、「WADAの報告書で言及された35人の大半は（今回の）パラリンピック選手団と関係ない」とし、決定は「偏見に満ちた政治的なものだ」と主張した。ロシアはスポーツ仲裁裁判所（CAS）に提訴する方針だ。

旧ソ連は1980年のモスクワ五輪で、「ソ連に障害者はいない」との公式見解に基づいてパラリンピック開催を拒否した。旧ソ連の共産主義イデオロギーが「働かざる者、食うべからず」と労働に重心を置いていたため、障害者を「無価値」とみなす制度や風潮につながったと考えられている。旧ソ連では障害者を施設に隔離することが当然とされた。

ソ連崩壊後のロシアでも、障害者の社会参加を促す動きは遅々として進まず、昨年年初頭の時点で労働適齢障害者の就業率は28%にとどまっている。

ただ、ロシアが94年から参加しているパラリンピックのソチ開催に向け、状況の改善を目指したのは事実だ。ロシアは2012年に国連障害者権利条約を批准し、11年からは公共機関のバリアフリー化などを目指す国家プログラムを履行している。リオ大会からの除外が、障害者スポーツの存在感や障害者政策への関心を低下させることが危惧される。

プーチン露大統領にとっては、一連の組織的ドーピング問題が、パラリンピック初開催という意味での「ソチの功績」にも傷をつける形となった。

## 風土計

岩手日報 2016年8月8日

世界的に活躍するアーティスト3人が被災地に思いを寄せた「未来絵PROJECT巡回展 絵のちから」が盛岡市の市民文化ホール展示ホールで開かれている▼その中で強烈な存在感を放っているのがビートたけしさんだ。鮮やかで多彩なモチーフ、枠にとらわれない表現から連想したのは「アール・ブリュット（生（き）の芸術）」。専門の美術教育を受けていない人たちの作品を指す▼障害者の作品に対して使われる場合も多く毎年同市で開かれる「いわて・きららアート・コレクション」などで、素晴らしさに接した人もいるだろう。激しい色使いやタッチは簡単にまねできない個性だ▼「おかあさんが いるかぎり／ぼくは生きていくのです／脳性マヒを 生きていく／やさしさこそが 大切に／悲しさこそが 美しい／そんな 人の生き方を／教えてくれた おかあさん」▼1975年、15歳で亡くなった土谷康文さん（奈良県）の詩の一節だ（向野幾世さん「お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい」より）。家族を思う純粋な言葉が結晶のように輝く。相模原殺傷事件の発生からもうすぐ2週間になる▼事件を起こした元施設職員は障害者の心の中にこれほど豊かな美術、文学の芽が存在することを知っていただろうか。知っていれば「いなくなってしまう」とは考えなかったに違いない。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行